

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野1：大学拡充計画の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:7】 教育の実践の場としての医療・福祉施設の展開</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新専攻分野の設置・収容定員の増加・大学院新分野の設置の検討と、実現へのプロセスの推進 2. 施設の改修及び教育環境などの改善に向けた取り組み 3. 連携する福祉施設の効果的な教育現場への活用と、附属医療施設整備の可能性の探究 	
<p>責任者:水谷 史生（法人事務局長） 分担者:山口 えり子（企画課長） 事務局:企画課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 新専攻分野の設置・収容定員の増加・大学院新分野の設置	<ol style="list-style-type: none"> ①大学院サテライトの検討（大学院各専攻、教務課、企画課） <ul style="list-style-type: none"> ・ 上級医療情報技師養成も視野に入れた大学院サテライトキャンパス開設の検討 ②作業療法養成課程設置の検討（法人事務局） <ul style="list-style-type: none"> ・ 新設に伴う校地、校舎、学習設備などの検討 ・ 新設に伴う教員数の確保や予算などの検討 ③大学院医療科学研究科における看護学分野設置の検討（看護学部、白子事務部、教務課、企画課）
2. 施設の改修及び教育環境などの改善	<ol style="list-style-type: none"> ①以下の箇所を改善する為の「実施日」「実施内容」の検討（施設管理課、経理課、白子事務部） <ul style="list-style-type: none"> ・ 千代崎キャンパスの設備老朽化に伴う改修及び入替（学生食堂改修、A講義棟トイレ設備改修、実験実習棟エレベーター更新、研究厚生棟空調設備改修、火災報知器入替） ・ 学内バリアフリー化の推進 ・ 白子キャンパス1号館、講堂空調熱源整備改修 ・ 底力教育推進センターの設備充実 ・ X線テレビシステム整備（放射線技術科学科の教育装置整備） ・ 白子キャンパス多目的広場の有効活用 ・ 多目的広場の整備及びフィットネスルームの整備拡張（卓球ルーム）による白子キャンパスにおける体育授業の開始 ②今後の教育環境改善に必要な施設設備についての調査（教務委員会、底力教育推進センター、学生指導委員会、大学事務局、法人事務局）
3. 関連福祉施設と附属医療施設	<ol style="list-style-type: none"> ①SUMS会が運営する福祉施設およびロボケアセンター（HAL）について、効果的な実践教育の場として機能するよう施設側との協働のもと、教育計画を立案（教務委員会、関連学科、教務課） ②附属医療施設整備の可能性の探究（学長）

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野2：大学広報の強化と入学者受入れの改善	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:3】 戦略的広報の展開</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度） 1. 本学のアドミッションポリシーに沿った学生確保を実現するため、広報活動の強化と入試制度の改革・改善の推進</p>	
<p>責任者:長村 洋一（学生・社会貢献担当副学長） 分担者:小山 尚樹（入学課長）、山口えり子（企画課長） 事務局:入学課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1-1. 広報活動の強化	<p>①オープンキャンパス、広報誌、ホームページ等の媒体を活用し、本学の概要、特色、入試制度、入学者選抜方針、特待生制度等について、学科・コース別、地域別、入試区分別、高校レベル別等の広報戦略に基づく、積極的な広報展開（入学課、企画課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科（コース）別・地域別・入試区分別・高校レベル別により効果的な広報手段の実現についての検討 ・ホームページ、特にモバイル（スマートフォン）サイトの充実を図ることによる高校生をより意識した情報発信の実施と、Facebook等のSNSの導入に向けての検討 ・受験生向けイベントへの在学生の活用 <p>②「大学ポートレート」への継続的参画、全学の自己点検・評価に加え、学部単位の自己点検・評価もエビデンスを確認したうえで実行、改善を繰り返すことによる内容の更なる充実と、受験生等に対する大学運営の現状に関する情報公表の充実（自己評価委員会、自己点検・評価推進WG）</p> <p>③受験生のニーズ及び志向の調査・分析実施による、効果的かつ効率的な募集活動の展開（入学課）</p> <p>④高等学校との連携強化の推進（入学課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各高等学校主催の進路ガイダンス・大学説明会への積極的な参加 ・高等学校教員向けの大学見学会の実施 <p>⑤各学科と関連するそれぞれの職能団体（例：日本診療放射線技師会）との連携による広報活動の検討（入学課）</p> <p>⑥大学ブランド力のアップのためのテレビ・新聞等マスメディアの利用と、各学科の教育、研究、地域貢献活動等の積極的な情報発信（企画課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人底力教育、ロボットスーツ HAL の導入（理学療法学科）、薬膳教育の取り組み（鍼灸学科、医療栄養学科）など本学独自の活動の情報発信 ・ホームページの整備、充実の推進、英語版ホームページの構築

<p>1-2. 入試制度の改革・改善</p>	<p>①アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の適切な運用の継続（入学課）</p> <ul style="list-style-type: none">・各学科が定めるアドミッションポリシーに沿った学生の確保が行われているかどうかの検証、入学者選抜方法の妥当性・信頼性の向上 <p>②入試結果（志願者数、手続者数他）や入学者の追跡調査及び併願大学に関する調査の実施、学科ごとの状況に応じた多様な入学者選抜方法の検討（入学課）</p> <ul style="list-style-type: none">・試験区分（AO・推薦・一般など）ごとの志願状況、入学手続者数、入学辞退者数の調査・分析による、入学者選抜方法の改善の検討・試験区分（AO・推薦・一般など）ごとの入学者の追跡調査（GPA、単位取得状況、国家試験結果等）実施による、入学者選抜方法の改善の検討・併願大学（競合大学）の入試結果および入学者選抜方法等の調査・分析による、入学者選抜方法の改善の検討 <p>③高等学校との綿密な情報交換実施による、高校教育現場の実情を入学者選抜方法への反映</p> <ul style="list-style-type: none">・現在、国が推進する「高大接続改革実行プラン」の趣旨に沿った、入学者選抜方法の改善・改革の検討
------------------------	---

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野3：教育内容の充実	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <p>1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	
<p>責任者: 鎮西康雄（教務・教育改革担当副学長） 分担者: 藤原正範（底力教育推進センター長・副教務委員長）、岩島 誠（FD推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>①底力教育の充実に向けた授業方法・授業内容の検討（底力教育推進センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・底力教育の科目群について現在の教育内容及び実施方法の問題点の洗い出しおよび改善方策の検討 ・「医療人底力実践」の展開・応用の実施企画についての検討およびプログラム作成 ・「チーム医療Ⅱ」の実施内容および必修科目化など、そのあり方の検討および実施 ・医療人底力教育担当の特別講師・非常勤講師の見直しの実施および次年度以降の授業計画への反映 ・「医療人底力実践(基礎Ⅰ)」の学科別プログラムにおける各学科の実施状況の調査と、効果的な実施に向けての改善推進 ・医療人底力教育の効果測定の試み <p>②基礎教養教育のあり方と教育内容の検討（教育改革・改善推進委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎教養教育部会・教員組織のあり方および基礎教養教育の内容と実施体制における現状把握とその問題点についての検討開始 <p>③専門教育改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学との差別化を意識した各学科教育の特色の把握（各学科） ・専門科目を精査整理し密度の高い内容と専門教育全体のスリム化についての検討開始（各学科） ・卒業研究の効率的なあり方についての検討（教育改革・改善推進委員会） <p>④教授方法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育改革改善提案の公募の継続と、採択課題の優先順位化と実現（教育改革・改善推進委員会） ・学生による授業評価のあり方についての検討と、本学独自の評価方法の確立（FD推進委員会）

2. 学習支援と向学心の高揚	<p>①要支援学生・留年退学リスク学生の早期発見体制の構築（IR推進室・教務委員会・底力教育推進センター）</p> <ul style="list-style-type: none">・要支援学生及び留年退学リスク学生の早期発見方法についての検討・要支援学生及び留年退学リスク学生に対するケアのあり方についての検討 <p>②学習支援体制（教育改革・改善推進委員会）</p> <ul style="list-style-type: none">・学生ピアサポート体制の構築についての検討推進・グループ学習支援体制の構築と環境整備についての検討 <p>③リメディアル教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・入学前リメディアル教育のあり方についての検討推進（入学課）・体系的な入学後リメディアル教育についての検討および試行的実施（底力教育推進センター）
----------------	---

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野4：学生支援の強化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な教育指導方法の具体化および実施 2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み 3. 学生の満足度向上に繋がる学生生活支援体制の構築 4. 大学行事、学友会活動、ボランティア活動への積極的な参加の促進と自主的に活動する学生の育成 	
<p>責任者:長村 洋一（学生・社会貢献担当副学長） 分担者:矢田 公（健康管理センター長）、大井 一弥（国家試験対策WG副委員長）、中川 一郎（医療福祉学科教授）、谷口 弘（就職・キャリア支援課長）、田中 宏治（学生課長） 事務局:学生課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 国家試験活動内容の具体化	<ol style="list-style-type: none"> ①学習の習慣化と指導（各学科、国家試験対策WG） <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験受験対象学生への、担当教員（担任等）による学習方法の指導と適性、学習の習慣化と定着度の確認 ・下位層の学生に対する特別プログラムの設定と、基礎学力の底上げの早期実施 ②学生の支援（各学科、国家試験対策WG） <ul style="list-style-type: none"> ・対策講義に欠席しないよう、出欠管理の徹底推進 ・欠席が続く学生へは、面談の実施など早期にサポートを実施するとともに、学習面だけでなく生活習慣の観点からも学生を支援 ③自主学習スペースの確保（教務委員会、学生指導委員会、施設管理課） <ul style="list-style-type: none"> ・学生が大学で予習・復習等を自主的に行えるスペースを確保し、学習時間向上に導くため学習環境を提供 ④国家試験合格に向けての意識向上（各学科、国家試験対策WG） <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格のモチベーションが下がる中間学年（2・3年次および6年制の3・4年次）において、あらためて目指す資格の魅力を再発見できるようなキャリア指導の実施
2. 就職支援体制の強化	<ol style="list-style-type: none"> ①進路ガイダンスの細分化（各学科、就職・キャリア支援課） <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、おおむね企業への進路希望が多い学科と病院・施設への進路希望が多い学科に分けてのガイダンスを実施しているが、各学科において就職先に特徴が見られるため、3年次前期に実施予定の就職活動の流れを中心としたガイダンスを学科別に実施 ②医療専門職者からのガイダンス（各学科） <ul style="list-style-type: none"> ・本学OB・OGを中心に各医療系専門職者から、実際の業務内容や求められる人物像等についての講話を実施（学生からの疑問や質問に対応） ③就職資料室の環境整備（就職・キャリア支援課） <ul style="list-style-type: none"> ・企業、病院、施設のパンフレットの保管方法の見直し、学生との面談スペースの確保

鈴鹿医療科学大学

<p>2. 就職支援体制の強化</p>	<p>④低学年から職種選択における広い視野を持たせるための指導の充実（各学科、就職・キャリア支援課） ・ガイダンスにおいて、取得資格で従事できる職域の紹介を行い、数年後の職業選択の際の知識を補完</p>
<p>3-1. 学生生活支援体制の強化- 学生の要望や状況を常に把握し対応する体制の強化</p>	<p>①学長と学生が直接意見交換する取り組みを定期的で開催（学長、副学長） ②引き続き学生の満足度を把握するとともに、取り上げるべき要望について検討（学生指導委員会、学生課）</p>
<p>3-2. 学生生活支援体制の強化- 健康管理体制の整備（からだ・こころ）</p>	<p>①健康管理センター（千代崎キャンパス）・白子保健室（白子キャンパス）における機能充実の検討（健康管理センター） ・利用状況等調査の実施と、調査結果に基づく改善実行 ・学生健康管理データの一元化、システムの検討 ②障がい者差別解消法の施行に向けた、支援体制と関係部署の連携の具体化（学生指導委員会、教務委員会、各学科、施設管理課、教務課） ③学生相談体制の有効なあり方、支援のあり方の検討（各学科、学生相談室） ・相談体制の整備 ・各学科教員との連携</p>
<p>3-3. 学生生活支援体制の強化- 福利厚生と基本的な生活指導</p>	<p>①学生の福利厚生、学内生活環境、学生生活の充実における満足度向上のための取組み（学生指導委員会、学生課、施設管理課） ・学生食堂、トイレ等学内生活環境の充実を継続検討 ②安全な学生生活を送れるための援助の継続（学生指導委員会、学生課） ・あいさつ運動、通学指導の継続実施 ・自動車通学者に対しての、安全運転講習会の開催の検討 ・キャンパス内・学校周辺、全面禁煙運動の継続 ③学生の栄養指導による健康管理への介入の検討（学生指導委員会、学生課、医療栄養学科） ・学生の食事に関する実態調査の実施と栄養指導 ・定期的に栄養相談できる環境整備の検討</p>
<p>4. 課外・社会活動の自主的参加への支援</p>	<p>①学生組織、各種クラブ・サークル活動支援の継続（学生指導委員会、学生課） ・積極的に参加、活動できるような支援 ②ゴミ拾い等、地域に貢献できるような活動を積極的に検討（学生指導委員会、学生課） ③全学的なボランティアセンター運営委員会の設置と、学生によるボランティア活動のコーディネート体制の強化（学生指導委員会、ボランティアセンター、各学科、底力教育推進センター） ④大学祭を、千代崎キャンパス、白子キャンパスそれぞれで開催できるよう検討（学生指導委員会、学生課） ⑤学内スポーツ大会の開催を検討（学生指導委員会、学生課）</p>

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野5：教職員の人材確保と育成	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学教員として相応しい人材の確保と育成 2. 自助努力を促しつつFD等による教育能力の向上に努め、次世代を担う教員が育つ環境の整備 3. 事務職員に課題解決型業務に対応できる能力を涵養するためのSDの実施 	
<p>責任者: 鎮西康雄（教務・教育改革担当副学長） 分担者: 岩島 誠（FD推進委員長）、水谷史生（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、 矢田智樹（人事・厚生課長） 事務局: 人事・厚生課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学職員として相応しい人材の確保	<ol style="list-style-type: none"> ①分野特性や本学の特殊事情を考慮し学科の適正な教員数や構成（年齢構成・男女比・実務教員の比率など）についての調査・検討（学長、副学長、大学事務局長） ②教員の昇任・採用に関する審査方法の見直しの実施（学長、副学長、大学事務局長）
2. FD等による教員の教育・研究能力開発の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①教員の教育力向上方策についての検討（FD推進委員会、教育改革・改善推進委員会）
3. 職員の課題解決能力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ①課題解決に関連した学内外の研修等への積極的な参加と、研修内容および研修成果の学内共有（学長、法人事務局、大学事務局） ②各部署において基本方針や中期計画に照らした現場の課題の洗い出しと、その解決策を立案・実行する活動の開始（学長、法人事務局、大学事務局）

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野6：研究機能の充実	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:5】 外部資金の獲得と独創的な研究</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度）</p> <p>1. 将来に向け、本学独自に指導的立場の教員を育てていくための、大学院の充実と研究者の育成</p> <p>2. 特色ある研究領域における独創的な研究を進めるための、研究環境の整備と充実</p>	
<p>責任者：川西正祐（大学院・研究担当副学長／薬学研究科長）</p> <p>分担者：葛原茂樹（医療科学研究科長）、磯部篤男（研究振興課長）</p> <p>事務局：研究振興課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学院の充実と研究者育成	<p>①大学全体として、あるいは学科毎にその能力を伸ばすような集团的・横断的指導体制を作り、研究力を醸成（各学科、各研究科、研究振興課）</p> <p>②教員の研究力向上のための方策として、若手教員の研究を支援する方法について検討するため、副学長(大学院・研究担当)の下に研究推進委員会を発足（副学長(大学院・研究担当)、研究振興課）</p> <p>③本学卒業生の大学院入学を促進し、学生及び大学院生の論理的思考力・問題解決力を向上させることによって研究能力を高め、教員後継者の育成の検討（各学科、各研究科、入学課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生を対象として大学院説明会や相談会の拡充、大学院生の研究活動等についての学内広報の強化、及び同窓会と連携した学部卒業生への情報提供強化等の実施により、大学院進学を促進 ・医療現場で活躍している社会人が大学院に入学しやすいよう休日講義や夜間講義を取り入れていることを告知し、入試広報活動を強化 <p>④平成28（2016）年度から、東京サテライトの放射線治療分野に「医学物理士」認定試験の受験支援演習を開設するため、それに対応できるカリキュラム整備、教員確保、ホームページ改定や学生確保のための広報活動等の開始（教務課、企画課、入学課）</p>
2. 研究環境の整備・充実	<p>①東洋医学的視点及び薬食同源の観点から本学の独創的な研究を進めるための研究環境の充実の検討（各学科、各研究科、東洋医学研究所）</p> <p>②各学科・各研究科・各分野に、独創的な研究対象を設け共同研究を進める体制の構築を検討（各学科、各研究科）</p> <p>③科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるための具体的方策の実施（研究振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費採択率向上を目指し、講習会の開催 ・より良い科学研究費申請書の作成のためのサポート体制の構築

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野7：地域・産学官連携推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・産学官連携研究活動による社会貢献の推進 2. 地域・産学官連携研究活動の強化に向けた学内基盤の整備 	
<p>責任者:鈴木宏治（社会連携研究センター長） 分担者:磯部篤男（研究振興課長） 事務局:研究振興課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 地域・産学官連携研究活動による社会貢献の推進	<p>①県・市町・企業・地域団体等との間で行う研究に関する産学官連携活動の推進（社会連携研究センター、研究振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県・鈴鹿市・鈴鹿商工会議所等と連携した事業の推進 1) みえメディカルバレープロジェクトの活動への参画 2) SUZUKA 産学官交流会等における活動の強化 「はなびらたけプロジェクト」の推進 ・三重県内の金融機関と連携した活動の展開 1) 三重銀総研との連携活動の推進 2) 第三銀行との連携活動の実施
2. 地域・産学官連携研究活動の強化に向けた学内基盤を整備	<p>①地域・産学官連携研究に関する組織づくりを具体化（社会連携研究センター、研究振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の全学科から推薦された教員を構成員とする社会連携研究センター・運営委員会の設置 <p>②社会連携推進の方策の検討（社会連携研究センター、研究振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育・研究資源（研究シーズ）等に関する情報の一元化と公開の促進

各重点分野の第一期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野8：国際交流の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備、現状調査、計画立案 2. 教員の国際化への対応力・国際的な発信力の強化と、学生の海外体験の機会の拡充 3. アジア等の保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進 	
<p>責任者: 葛原茂樹（医療科学研究科長） 分担者: 大西和子（看護学部長）、磯部篤男（研究振興課長） 事務局: 法人事務局、大学事務局、研究振興課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. グローバル化に向けた学内体制整備	<p>①国際交流検討委員会の設置（各学科、法人事務局、大学事務局、研究振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、各学科から1名の委員を推薦 ・外国人教員に適任者がいる場合には、別枠で委員を依頼 <p>②各レベル（大学、学部、学科、個人）で実施されている国際協力活動（学術、教育、その他）の現状調査の実施と、現在、継続的あるいは萌芽的に進行中のものがあれば、将来の発展性を含め調査を実施（国際交流検討委員会、各学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理し、大学・学部・学科で重点的に推進あるいは後援すべき課題と活動を検討 ・アジア地域を重点化の対象とし、学術と教育（留学生の相互交換など）について、交流企画を立案 ・国際交流担当の常置組織として、大学国際交流室（仮称）設置を検討
2. 教員の国際化への対応力・国際的な発信力強化と、学生の海外体験の機会拡充	<p>①国際対応力実践の場として、全ての学科において教員と学生の一定数が海外体験することを目標に、学科単位で検討を開始（第一期中期計画終了までに実行に移すことを目標）（国際交流検討委員会、各学科）</p>
3. アジア等の保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくり（本学独自のものと、三重県国際医療技術連携体制と連携するもの）	<p>①三重県国際医療技術連携体制（M-MUSCLE）と連携し、国際交流を推進（国際交流検討委員会、各学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27(2015)年度から予定されている英国バーミンガムでの研修（看護）に参加の検討 ・三重県が実施する国際医療技術連携に参加 <p>②本学活動として、継続的に交流と提携検討が可能な拠点づくりを目指し、拠点候補大学・施設の検討を開始（国際交流検討委員会、各学科）</p>

重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野9：大学活性化のための継続可能な組織体制改革	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学長のリーダーシップが常に発揮できる組織体制の構築と目標達成に向けて組織としてPDCAを着実に回せるマネジメントの実現 2. ビルドだけではなくスクラップの視点から組織・業務の見直しによる効率化と質の向上 3. 教職員のモチベーションを高めるため、業績や能力評価を適切と思われるシステムで評価し、昇任や給与・賞与に反映させる評価制度の整備 4. 社会への説明責任を果たし、社会から信頼される大学であり続けるための体制を構築 5. 災害、事件、事故、情報漏洩、研究不正、犯罪等の各種危機に適切に対応できる危機管理体制の整備 	
<p>責任者：豊田長康（学長） 分担者：水谷史生（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長） 事務局：人事・厚生課</p>	
平成27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画の項目	活動計画内容
1. 学長のリーダーシップとマネジメント体制の構築	<ol style="list-style-type: none"> ①学長・副学長ミーティングの継続実施（学長、副学長、大学事務局長） ②各学部・学科の各層の教員と学長（副学長）との意見交換ミーティングを実施（学長、副学長） ③自己評価委員会の下部委員会である「活動計画検討・実行委員会」を実動させ、大学全体・各部署・各個人でPDCAを着実に回す体制を整備（自己評価委員会） ・基本方針・中期計画に基づき、各学部、学科、研究所、委員会等が改善に向けての課題を共有し、各部署単位で自己点検評価を実施 ④IR推進室による教学の現状分析と可視化を促進し、エビデンスとして蓄積（IR推進室） ⑤目標・計画達成に向かって実動しやすいよう、各種規程の見直しと活用を容易にする規程管理方法を構築（法人事務局・大学事務局） ⑥教職協働の下、管理部門と教学部門の連携の強化（教員、法人事務局・大学事務局） ・教員、管理部門、教学部門間のコミュニケーションの機会の拡充
2. 組織・業務の見直し	<ol style="list-style-type: none"> ①ビルドだけではなくスクラップを重視する視点で各種組織・委員会・業務等を見直し、「ムダ・ムリ・ムラ」の有無の検討（学長、法人事務局、大学事務局、学科）
3. 教職員評価システムの構築	<ol style="list-style-type: none"> ①教職員のモチベーションを高めるための評価システム構築を検討（学長、副学長、法人事務局、大学事務局） ・他大学等における教職員評価制度を調査・検討

鈴鹿医療科学大学

4. 社会への説明責任	①コンプライアンスに関する基本規定を見直すとともに、教職員一人一人の社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させるための研修会等を更に充実（人事・厚生課）
5. 危機管理体制の整備	①防災避難訓練のあり方を見直し、臨場感のあるシナリオの作製等により、実効性の高い訓練に改善（学長、施設管理課、白子事務部） ②大学の危機管理体制全体について俯瞰し、整備が必要な危機項目について検討を開始（学長、法人事務局、大学事務局）

各重点分野の第1期中期計画（3年）・第1-1期活動計画（1年）

重点分野 10：財政基盤の充実	
<p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立 【中期計画】第一期中期計画（平成 27(2015)–平成 29(2017)年度） 1. 高水準の教学展開に要する安定した財政基盤の確保 2. 大学のシーズを利用した外部資金の獲得推進 3. 経費削減の推進</p>	
<p>責任者:水谷史生（法人事務局長） 分担者:水谷史生（経理課長）、磯部篤男（研究振興課長） 事務局:経理課、研究振興課</p>	
平成 27(2015)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 財政基盤の確保	①財政基盤充実の検証を実施（経理課） ・過去の事業活動と財政基盤の変動を関連付けた財務分析を実行し、財政基盤の充実が図られてきていることを検証 ・事業計画に対する財務的な影響を検討するための財務シミュレーションの作成 ②会計処理の適正化推進（経理課） ・経理職員育成を目的とした OJT の実施 ・平成 27(2015)年度から稼働した新しい経理システムに対応
2. 外部資金の獲得	①教育研究設備に関する補助金制度の積極的な活用の促進（経理課、各学科） ②大学の研究シーズをもとにした受託・共同研究費や寄附金の獲得（研究振興課）
3. 経費削減の推進	①費用対効果を考慮した経費削減活動の検討（経理課、法人事務局） ②全学的な経費節減活動の実現可能性の検討（学長、法人事務局、大学事務局）